



やるきほんききさき  
**木佐木**

神奈川県議員

日本共産党

2023.10.18  
**木佐木たまたさ news**  
 発行：党横浜北東地区委員会  
 横浜市鶴見区潮田 3-147-6  
 TEL：045-511-1021

**Profile**  
 ▶1984年 山梨県出身  
 ▶鶴見区馬場在住  
 ▶神奈川大学法学部卒  
 ▶よこはま健康友の会会長  
 ▶横浜東民商顧問

# 奨学金の額は日本全体で 10 兆円にも上る！

## 給付型制度は県教委の熱意が問われる課題

【木佐木】かつて教育長は「大学生に対する給付制奨学金は、経済的に困難を抱える高校生の進路保障につながることを期待できる」としながら、国の所管であるため県としては制度の創設は予定していないと答弁した。

しかし、藤沢市教委が大学生に対する給付型奨学金制度を実施するなど、制度創設は国の専権事項ではない。高校生の進路確保に県がどれほど熱意を持っているかにかかっている。

そこで教育長に伺う。高等教育は「受益者負担」が当たり前という認識なのか。お金の心配なく学べるよう、本県の大学生の学びを支える県独自の給付型奨学金制度を創設すべきと思うがどうか。

【教育長】学校教育法では、受益者負担の考え方が許容されている。県教委としては、大学生に対する給付型奨学金制度を独自に創設する考えはないが、高校生の進路保障にもつながることから、今後も国に制度の拡充を要望していく。

【木佐木】日本は国際人権規約の高等教育の段階的無償化条項に批准をしているが、国立大学の学費が値上がりしているこの状況は、むしろ逆行している。県として、国の姿勢を条約の批准に則って是正していただきたい。

【教育長】国は大学生に対する給付型奨学金を法制化し、今後も充実させるとしているのので、高等教育の無償化に向けて段階的に取り組んでいるものと認識している。



## 若者の不安を取り除く返済支援を！

【木佐木】奨学金返済の延滞をしたことがある若者は 3 割近くに上り、奨学金の返済が生活設計の様々な場面で影響があると回答している。結婚や出産、子育てでは 3 割を超える人が影響があると回答しており、人生の重大な転機にも大きな影響を与えている。

奨学金の返済が若者の結婚や出産の大きなハードルになっているとの認識はあるのか。奨学金返済による負担や不安を解消するために、県として奨学金返済の支援制度を設けるべきと考えるが、福祉子ども未来局長の所見を伺う。

【福祉子ども未来局長】奨学金返済が負担となって、結婚、出産、子育てをためらう若者がいることは、課題として認識している。国は、高等教育費の負担軽減策に取り組むこととしており、県ではこうした国の動向を引き続き注視していく。

【感想】授業料が値上がりしているのに、無償化に向けて取り組んでいるとの認識を示した教育長の答弁には愕然としました。給付型奨学金も返済支援も県が取り組むことを誰も妨げていません。県のやるきの問題です。

動画はこちらから→

